マイクロ波帯における 材料定数測定技術の導入

プロジェクト研究報告会 2006年7月24日 詫間電波工業高等専門学校

情報通信工学科 草間 裕介

背景,目的

- ・ 学生実験で導波管定在波測定を実習しており、必要な測定装置が揃っている.
- · 高周波誘電率の基本推定原理を学習 する好機会である。
- · Xバンド(8-12 GHz)の適用例が少ない.
- ⇒ <u>新たに</u> 材料定数測定を取り入れた 専門学生実験導入を検討する.

目次

1. 背景

研究の動機, 学生実験, 誘電率推定の現状

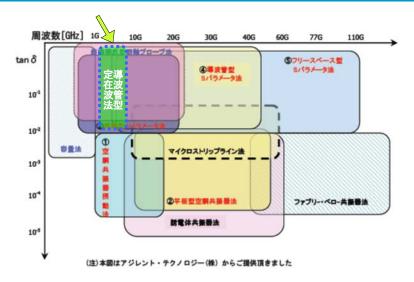
2. 測定系

実験装置, 測定試料, 測定パラメータ

- 3. **誘電率推定**ニュートン法とチャートの比較
- 4. まとめ, 今後の予定

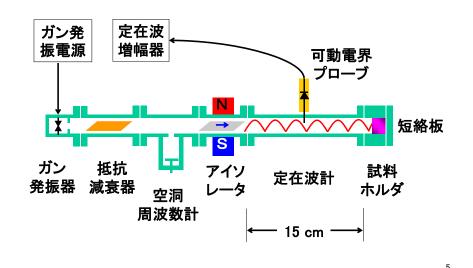
2

誘電率測定技術の現状



3

測定系

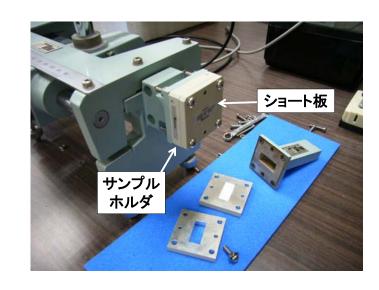


測定系

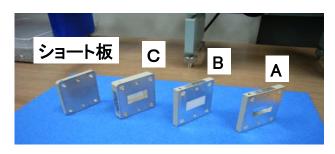


6

サンプルの取り付け



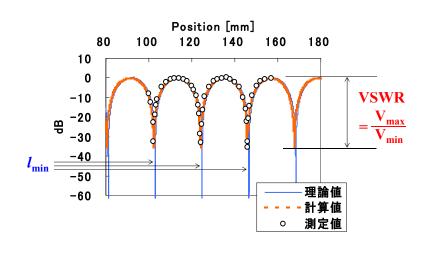
サンプル形状



	ホルダ厚み平均	サンプル厚み平均 (sin重み平均)
Α	6.053±0.006 mm	6.053 mm 空気
В	6.055±0.005 mm	5.987 mm テフロン
С	9.009±0.001 mm	2.991 mm テフロン

使用マイクロメータ: Mitutoyo 0-25 mm, 分解能 0.001 mm

測定パラメータ



ニュートン法による推定

	測定	理論計算
複素 反射係数 正規化	$\begin{cases} \Gamma = \frac{\text{VSWR} - 1}{\text{VSWR} + 1} \\ \theta = \pi + 2\beta l_{\min} \end{cases} $ (1)	Z_{w} :中空導波管の 波動インピーダンス $Z_{1}(\dot{arepsilon})$:サンプル充填導波管の 波動インピーダンス $\gamma_{1}(\dot{arepsilon})$:サンプル充填導波管の 伝搬定数 d:サンプル厚み
インピー ダンス	$z_m = \frac{1+\Gamma}{1-\Gamma} (2) \text{th}$	$z_c = \frac{Z_1}{Z_w} \tanh \gamma_1 d (3)$
	I	l 10

ニュートン法による推定

	測定	理論計算
複素	$\begin{cases} \Gamma = \frac{\text{VSWR} - 1}{\text{VSWR} + 1} \\ \theta = \pi + 2\beta l_{\text{min}} \end{cases} $ (1)	$z_c = \frac{Z_1}{Z_w} \tanh \gamma_1 d (2)$
反射係数	$\theta = \pi + 2\beta l_{\min}$	$\Gamma = \frac{z_c - 1}{z_c + 1} (3)$
		$Z_{_{\scriptscriptstyle{w}}}$:中空導波管の 波動インピーダンス
		$Z_{_1}ig(\dotarepsilonig)$: サンプル充填導波管の 波動インピーダンス
		$\gamma_1(\dot{arepsilon}):$ サンプル充填導波管の 伝搬定数
		d:サンプル厚み

空気の誘電率

	$\epsilon_{ m r}$	$\epsilon_{ m r}^{~}$	$ \Gamma $	θ	
測定値	1.234	0.039	0.97	69.36 °	
理論值	0.999	0.000	1.00	80.09°	
(参考値)	1.00	0.00			

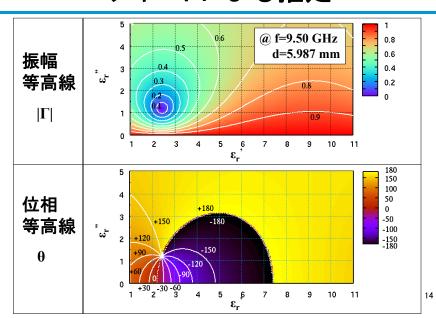
12

テフロンの誘電率

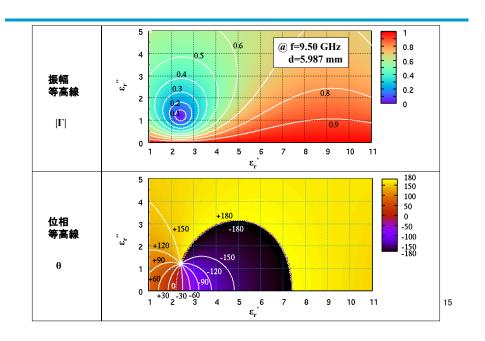
	$\mathbf{\epsilon_r}$	$\epsilon_{\rm r}$ "	$ \Gamma $	θ
測定値 B	解なし	解なし	0.92	-4.33 °
測定値 C	2.711	0.334	0.95	118.30 °
(参考値)	2.04 ~ 3.10	0.001 ~ 0.015		

13

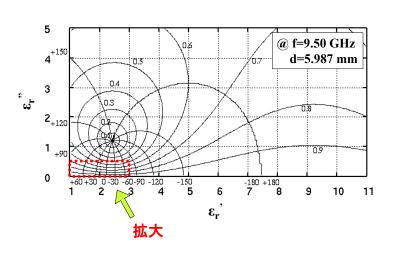
チャートによる推定



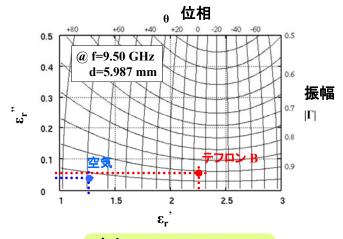
チャートによる推定



誘電率 - 反射係数チャート



誘電率 - 反射係数チャート



空気 : 1.27 - j 0.04 テフロン: 2.25 - j 0.06 推定結果の比較

	ニュートン法	チャート
空気	1.234 - j 0.039	1.27 – j 0.04
テフロン B	解なし	2.25 - j 0.06
テフロン C	2.711 - j 0.334	2.73 - j 0.32

(参考値) テフロン, PTFE

$$\binom{2.04}{3.10}$$
 - j $\binom{0.001}{0.015}$

18

推定方法の比較

	ニュ ートン法 (ディジタル的)	チャート (アナログ 的)
解の 安定性	収束解が得られ △ ない場合がある. (誤差に対して敏感)	必ず解が得ら ◎ れる. (学生実験向き)
時間	瞬時に解が出る.◎	チャートの作成に △ 手間がかかる.
応用	透磁率と誘電率の 同時推定が可能.⊚	透磁率と誘電率の 同時推定は困難. ×

まとめと今後の方針

- ・ チャート推定を導入することで、学生実験教材導入の見通しを得た.
- ・ 応用性の高いニュートン法の適用は 学生実験として不向きである.
- ・ 実験装置の系統誤差の排除,コスト削減を兼ねた装置本体の自作.
- · 測定誤差の定量評価.

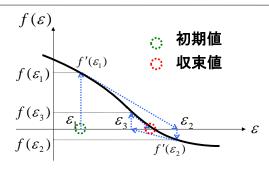
ニュートン法による推定

ε_r , ε_r , に関する 連立方程式

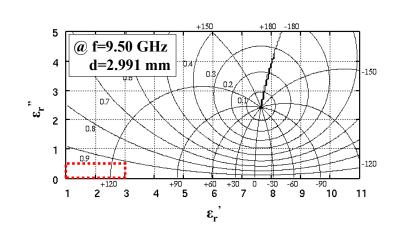
測定値 = 計算値

$$\begin{cases}
\operatorname{Re}\left[z_{m}\right] = \operatorname{Re}\left[z_{c}\left(\varepsilon_{r}', \varepsilon_{r}''\right)\right] \\
\operatorname{Im}\left[z_{m}\right] = \operatorname{Im}\left[z_{c}\left(\varepsilon_{r}', \varepsilon_{r}''\right)\right]
\end{cases}$$

ニュートン 法の概略

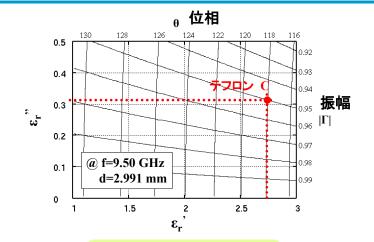


誘電率 - 反射係数チャート



22

誘電率 - 反射係数チャート



テフロン: 2.73 - j 0.32

誤差要因

- ・ ガン発振器の周波数不安定性
- · 定在波計の目盛り分解能(>0.05 mm)
- ・ 表示目盛りの未校正
- ・ プローブ挿入による等価容量
- · アイソレータの特性限界(<30 dB)
- ・ その他・・・

自作費用見積り

<1セットあたり>

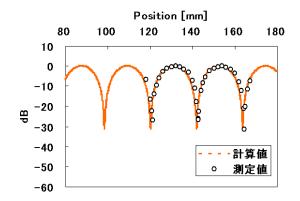
ガン発振機 10 GHz	@ 7千円
スロット導波管	@ 40千円
サンプルホルダ	@ 20千円
ショート板	@ 10千円
プローブ	@ 4千円
RFケーブル	@ 15千円
LNA	@ 120 千円
検波器	@ 100 千円

合計 316 千円

25

ただし、プローブ走査機構等の測定ジグは含まず

テフロンの定在波パターン



26